

軍縮と核

川崎哲

kawasaki@peaceboat.gr.jp

<http://kawasakiakira.at.webry.info> (ブログ)

ツイッター @kawasaki_akira

授業題目

核なき世界をつくり出す

授業概要・目的／到達目標／身に付く力

[授業概要・目的]

「核のない世界」が語られて久しい。それでも、世界から核をなくすことは容易でないように見られる。なぜだろうか。この授業では、世界の核兵器の現状はどうなっているか、なぜ核兵器はなくなるのか、各国の核政策はどのようなもので、軍縮交渉はどのように展開し、どのような将来展望を持っているかについて学ぶ。また、原子力と核兵器はどうつながっているのか、原発がもたらしている危険とは何か、脱原子力はどのようにすれば可能なのかについても学ぶ。担当教員は反核平和の立場から国際NGO活動に長く携わっており、その経験を踏まえて、国際的な活動や交渉の現場の声を紹介する。それを踏まえ、核なき世界への道筋を具体的にかつ批判的に考えていく。また、核だけでなく、広く軍備、戦争、テロリズム、安全保障の問題についても、それらの脅威をどのように取り除いていけるかという視点から概観していく。これらの問題において、日本は世界のなかでどのような位置にあり、どのような問題を抱えているのかについても考えていく。

[到達目標]

政府、国連、NGO等の活動の概要を知り、核のない平和な世界の実現への課題と道筋について自らの意見を持つ。そしてそれを口頭また文書にて的確に対外的に表現することができるようになる。意見の異なる相手との討議をおそれず、そうした討議のなかからさらに自らの意見を深め発展させることを習慣づける。授業のなかで学ぶことを踏まえて、現実の社会で進行している事態、ニュース等について自ら批判的に検証することができるようになる。

[身につく力]

①専攻する分野についての知識・理解、③様々な情報から本筋を明らかにする力、④問題解決への企画と行動力、⑤柔軟な発想と筋を伴う考える力、⑥自律した学びを続ける力、⑨自分の事を相手に伝える力

毎回の授業

講義形式の授業のなかでディスカッションもとり入れる。毎回、授業開始時まで読んでおくべきテキスト等を指示し、冒頭に数名による発表を行う。授業終了時には質問・コメントを回収する。講義のテーマは以下のような流れを想定するが、臨機応変に展開する。

1. 導入、概論
2. ヒロシマ・ナガサキ、グローバル・ヒバクシャ
3. 福島原発災害の教訓とは何か
4. NGOのさまざまな平和活動

5. 核不拡散条約（NPT）体制
6. 国連、国際法の役割
7. 核兵器禁止条約 I 背景
8. 核兵器禁止条約 II 展望
9. 核からみる日米関係
10. 世界の紛争、テロ、核拡散
11. 原子力と核兵器のつながり
12. 日本の原子力政策の問題点
13. 脱原発はどのように可能か
14. 東アジアに平和共同体をつくる
15. 世界のなかの憲法 9 条

成績評価方法

授業参加（質問や討論参加を含む）：35点。

毎回のコメント用紙への記入と内容：35点。

レポート：30点。

テキスト

川崎哲『核兵器を禁止する』岩波ブックレット、2014

太田昌克『日本はなぜ核を手放せないのか 「非核」の死角』岩波書店、2015

参考文献

日本軍縮学会『軍縮辞典』信山社、2015

履修する上での必要な要件

授業では本テーマに関連する時事問題を頻繁にとりあげ、各人の意見を求めます。新聞等で日頃からニュースに接するように心がけてください。